

牛乳・乳製品輸出への取組みと課題



2020年1月14日

豊田通商株式会社

所在地 : 本社(本店) 愛知県名古屋市
東京本社 東京都港区
世界120カ国以上で事業展開

年商 : 6兆7,627億円 (2019年3月期)

事業内容 : トヨタグループの一員として
数多くの事業を展開する総合商社

北海道乳業株式会社

所在地 : 本社・工場 北海道函館市
東京営業部 東京都港区

年商 : 250億円 (2019年3月期)

事業内容 : 牛乳、乳製品(チーズ・バター・煉乳・
ヨーグルト・デザート・粉乳)の製造
ならびに販売

2017年4月に食品輸出専門部署を設立。
今後も成長が期待される海外市場に日本の良質な
農林水産品・食品を輸出し、新たな事業の柱としたい。
そのためには海外の人々に認められる付加価値を
有した**魅力的な商品の品ぞろえが不可欠。**

北海道産の牛乳・乳製品という優れたブランド商品
を日本国内だけではなくアジアや世界の食卓に届け、
認知度を一層高めたい。
そのためには海外の市場、規制、物流・流通網など
多岐にわたる情報と対応ノウハウが不可欠。

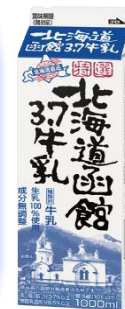
【豊通】
情報・
ノウハウ

+

【北乳】
商品・
ブランド力



迅速な輸出実現
&
海外でのブランド構築



国内市場

(単位：断りなき限り 百万トン [生乳換算])

生乳生産量(2018年)	7 (うち北海道産 4)
うち牛乳等向け処理量	4 (残りは乳製品加工用)
消費量 [含輸入品]	12 (一人当り 96kg/年)
輸出量	0.03 (生産量の0.4%)
うち牛乳の主な輸出先	香港(4,000トン), 台湾(700トン)
備考	インバウンドで特に北海道産の牛乳・乳製品は人気が高い

※ 生乳・・・絞ったままの殺菌処理前の乳

(資料：農林水産省「食料需給表(H30)」 「牛乳乳製品統計調査(H30)」、財務省「貿易統計(2018)」)

海外市場

(単位：断りなき限り 百万トン [生乳換算])

生乳生産量	841 (日本の120倍)
主要生産国・地域	インド(184), EU(167), 米国(99), パキスタン(46), ブラジル(35), 中国(32)
全世界貿易量	76 (生産量の9%)
主要輸出国・地域	EU(20), NZ(19), 米国(12), ベラルーシ(4), 豪(3), アルゼンチン(2)
主要輸入国	中国(15), メキシコ(4), アルジェリア(4)
一人当り消費量 (アジア諸国より抜粋)	タイ(31kg), 中国(20kg), ベトナム(19kg) インドネシア(13kg), フィリピン(13kg)

(資料：FAO「FOOD OUTLOOK(2018)」, 一人当り消費量は弊社推計)

- ◇ 今後アジアの国々では食の西洋化による牛乳・乳製品の需要拡大が見込まれる。インバウンドによりブランド認知度が高まっている北海道産の牛乳・乳製品は、アジアの国々への輸出拡大が期待される。
- ◇ 加えて、牛乳・乳製品市場が巨大で成熟しているEU市場において日本産牛乳・乳製品の輸入が昨年解禁され、今後はチーズ等の加工度の高い乳製品の輸出拡大が期待される。
- ◇ 一方で動物検疫上の理由から牛乳・乳製品に対する輸入規制は多くの国々で厳しい。

牛乳・乳製品輸出への取組み

『“日本の食品”輸出EXPO』に
第1回より2社で共同出展

✓ 海外の優良企業から代理店契約の要請あり

✓ ただし**生鮮牛乳(要冷蔵)の賞味期限の延長**が条件

課題
発生

※ 現在海外に輸出されている牛乳は常温で長期の保管が可能な**LL牛乳**(Long Life牛乳)が中心
[LL牛乳は無菌充填するために超高温殺菌を行うことから、一般的に牛乳本来の新鮮な風味が損なわれる]

課題
解決

包材と製造工程の改善で **生鮮牛乳の大幅な賞味期限延長を実現** : 従来は製造後15日

35日

生鮮牛乳の**海上コンテナ輸送**が
可能に(台湾・香港向け)

空輸に比べ
大幅な**コストダウン**を実現

※ 香港で要冷蔵の日本産生鮮牛乳の販売は業界初(弊社調べ)
(合せてチーズ・ヨーグルト等の乳製品も輸出へ)

※ 小売価格は約700円/ℓとやや高額ながら、コンビニ・スーパー等で販売され、
現地の消費者にも人気な商品に

※ 台湾+香港向けに現在は毎月60~70トンを輸出、今後も増加予定



台湾での販売風景

牛乳・乳製品輸出拡大に向けた課題(1)

現行

生鮮牛乳(要冷蔵)の賞味期限延長 : 15日 → 35日

台湾・香港へ 生鮮牛乳 の海上コンテナによる輸出を実現

今後

新たな設備投資・
輸出実務効率化を
行わないと

販売までの
リードタイムが
ネックとなり、
東南アジアや
中東等への
海上輸送による
**生鮮牛乳の
輸出は困難**

更なる輸出拡大には

**課題
①**

「窒素充填機」、「容器の重層化」
などの賞味期限再延長のための
設備投資が必要

**課題
②**

動検・衛生証明書・
原産地証明書・通関等の
輸出実務が煩雑・非効率

**要望
①**

【政府による継続的な
輸出向け投資への支援】

**要望
②**

【工数・時間のかかる
輸出諸手続きの簡素化】

賞味期限再延長 : 35日 → 50~60日

輸出までの**リードタイム短縮**

タイ・ベトナム・マレーシア・UAE等に**輸出先拡大へ**

中国向け輸出実現

◇ 牛乳・乳製品の消費量が約47百万トンあり、今後も需要拡大が期待される**中国市場はビッグチャンス**

課題 ③

現在日本産牛乳・乳製品は放射性物質に伴う検査証明書が未合意のため中国には**輸出できず**

EU向け輸出実現

◇ 昨年、巨大市場であるEU向け牛乳・乳製品の**輸出が解禁**。加工度の高いチーズ等の乳製品の輸出拡大のチャンス

課題 ④

HACCP対応した工場施設整備に加え、EU側の求める衛生基準を満たす**国内の生乳生産農場を確保することが必須**

中国・EUへの輸出実現には政府の強力な支援による規制克服が必要

要望 ③

【 中国への輸出再開実現 】

及び

【 中国向けHACCP施設整備への支援 】

2社協力の下、2030年までに
中国向け牛乳輸出 4万トン(100億円) 達成へ

要望 ④

【 EU向けHACCP施設整備への支援 】

及び

【 生乳生産農場登録の簡素化への支援 】

乳製品の本場EUでの
北海道産乳製品のブランド価値確立へ

海外で既に相応の知名度を持つ**北海道産ブランドの一層の価値確立**を通して輸出を拡大し、その効果を**日本の酪農家及び農業関係者の収益機会拡大**にもつなげていきたい。